

## イノベータ養成のためのサンドイッチ教育

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：三重大学（総括責任者：駒田 美弘）

## プロジェクトの概要

本事業では、産業界等の課題を共同研究プロジェクトとし、若手研究人材が担当し、三重大学が提案している 2 段階 OPT サンドイッチ教育により「プロジェクト・マネジメントができる博士人材」に転換し、産業界の中核人材として輩出する。大学では、プロジェクト・マネジメント指導教員（PM 教員）と研究開発指導教員（R&D 教員）が第 1 段階のサンドイッチ教育を行い、新規「実社会プロジェクト」を企画立案する。その後、共同研究先の企業で「実社会プロジェクト」の実施を通じたインターンシップ教育を、企業経営者と大学教員が第 2 段階のサンドイッチ教育を実施することで博士号を取得したイノベータとしての実践力を身に付ける。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

地域にフォーカスし、三重県の地域企業での長期インターンシップというグローバルな取組からグローバル人材養成へとつながったユニークな取組であり評価できる。また、養成対象者数は当初目標を達成することはできなかったものの、博士課程学生の進路の開拓等、本来の目的については全学的にしっかり取り組まれている点も評価できる。今後の継続において、「プロジェクト・マネジメントができる博士人材（PM 型博士人材）」養成を想定し、従来の「アカデミア・キャリア志向型」の博士課程学生に対する専門教育と対等に位置づけるという意識改革、地域企業からのグローバリゼーションに寄与できるプロジェクト・マネジメント人材の輩出というテーマに沿って、地域イノベーション学研究所・地域戦略センターと連携して全学展開を行うことを期待する。

・**目標達成度**：ポストドクター（PD）の養成人数は目標を達成し、養成修了後の企業等へのキャリアパスも実現しているが、博士課程（後期）学生（DC）に関しては、養成者数、産業界への輩出者数ともに目標に大幅未達であった。当初の計画見通しが甘かったのが主要因であるが、DC 全員への個人的面談等により目標数達成への努力、養成修了者の多くが次のキャリアパスを得ている点は評価できる。取組内容としては長期インターンシップを通じ、全学の意識改革を推進、着実な成果を挙げていると認められる。

・**イノベーション人材養成システム改革状況**： 地域イノベーション学研究科や地域イノベータ養成室との連携など、地域におけるイノベータ・プロジェクトマネジメント人材養成という目的に即した効果的な体制を構築し、本事業の基本理念を大学の中期目標に記載するなど、大学全体としての目標設定につながった。構築されたシステムは、養成対象者にとっても理解しやすいよう検討されたものとなっている。サンドイッチ教育は地方大学の模範になる取組であり、養成修了後の進路選択状況に効果が現れている。地域産業に輩出する視点に基づき既設のイノベーション研究科と連動していることを特徴としているが、今後の博士人材に必要なグローバルな視点の取組にも注力することを望む。

・**実践プログラムの開発・運用状況**： 地域企業との連携、地域企業でのインターンシップは、養成対象者にとって地域企業全体の活動を地域及びグローバルな視点で捉えることにつながったこと、全国公募による養成対象者を選考基準に則って、しっかりと選考した点は評価できる。また、比較的多数の養成修了者がインターンシップ先の地域企業に就職しており、地域の活性化にもつながったこと、きめ細かな会議運営、養成対象者からの評価の高い実践プログラムが構築され実施されたことも評価できる。事業実施の成果から地域の視点は正しいと評価されたが、より全国、よりグローバルな視野でのPD、DCに対する教育、キャリアパス開拓も期待する。

・**実施体制**： 地域イノベーション学研究科、地域戦略センター等、もともと地元地域を強く意識した機関の運営体制をうまく利用し、「地域イノベータ養成室」の新設、人材育成経営会議の開催等、実施体制を構築し、「イノベータ養成のためのサンドイッチ教育」の運営を全学的に円滑に推進する体制が整備された点は評価できる。また、地元企業の意識改革に寄与している点も評価できる。一方、継続のためには人件費も含めた十分な予算措置、企業との連携や協力教員の割合の増加など、より積極的な活動計画を期待する。

・**今後の進め方**： インターンシップを中心に据え単位化し、地域企業との連携による「イノベータ養成」の仕組みを継続していることは評価できる。良いプログラムが構築されており、座学等のプログラムの継続を含め、「イノベータ養成のためのサンドイッチ教育」の有効性、産業界からのニーズを機関として高く認識し、組織改革に盛り込まれることを期待する。本事業が機関のシステムとして自律的に継続するよう、具体的な規模、予算措置、人員の配置、教職員や学生の意識改革への取組についても、さらに明確な計画策定を期待する。